

高知県金融経済概況

【概 論】

高知県の景気は、一部で弱めの動きがみられるものの、個人消費等を中心に持ち直している。

前回の概況公表時（10月中旬）以降の県内景気を見ると、個人消費は着実に持ち直している。観光は増加している。設備投資は持ち直しの動きに一服感がみられるほか、公共投資は弱めの動きとなっている。住宅投資は減少している。この間、製造業の生産は一部で弱めの動きがみられるものの、全体では横ばい圏内で推移している。そうしたもと、労働需給面は改善の動きに一服感がみられるものの、引き続き引き締まった状態となっている。雇用者所得は緩やかに増加している。

先行きについては、企業・家計の両部門において、所得から支出への前向きな循環が続くもとで、持ち直しの動きが続くとみられる。ただし、①コスト上昇と価格転嫁の動向、②人手不足の影響、③海外経済の動向の影響等について、注視していく必要がある。

【各 論】

1. 需要項目別の動向

公共投資は、弱めの動きとなっている。

発注の動きを示す公共工事請負金額をみると、23/10月は前年を下回った（23/10月前年比：▲5.6%）。

設備投資は、持ち直しの動きに一服感がみられる。

2023年度の設備投資額（23/9月短観）は、非製造業を中心に前年度の大型投資の反動がみられるが、維持更新目的やBCP対応等の投資を底堅く実施していくことが予定されている（全産業前年度比：▲17.0%）。

この間、企業からみた生産設備や営業用設備の過不足感（23/9月短観）は、過剰超となっている（生産・営業用設備判断D.I. <「過剰」－「不足」>、23/6月：+5→9月：+3）。

個人消費は、着実に持ち直している。

大型小売店¹、コンビニエンスストアの販売動向、旅行取扱高は、着実に持ち直している。家電量販店の販売動向は、弱めの動きとなっている。乗用車新車登録台数（23/9月前年比：+9.3%）は、供給制約の影響が和らぐもとの、緩やかに持ち直している。

観光は、増加している。

23/9月の県内の主要観光施設への入込客数（23/9月前年比：+47.4%＜速報値＞）と主要旅館・ホテルの宿泊客数（同：+17.2%）は、ともに前年を上回った。

住宅投資は、減少している。

23/9月の新設住宅着工戸数は、前年を下回った（23/9月前年比：▲11.7%）。

2. 生産

製造業の生産は、一部で弱めの動きがみられるものの、全体では横ばい圏内で推移している。

機械は、一部でやや弱めの動きがみられるものの、全体では緩やかに持ち直している。食料品は、一部でやや弱めの動きがみられるものの、全体では横ばい圏内で推移している。窯業・土石製品は、弱めの動きが続いているものの、全体としては下げ止まっている。パルプ・紙・紙加工品は、減少している。鉄鋼は、持ち直しの動きに一服感がみられる。

3. 雇用・所得

労働需給は、改善の動きに一服感がみられるものの、引き続き引き締まった状態となっている。

23/9月の有効求人倍率は、前月と同水準となった（23/9月：1.17倍）。

雇用者所得は、緩やかに増加している。

23/8月の1人当りの現金給与総額は、前年を上回った（23/8月前年比：+2.9%＜速報値＞）。

4. 物価

消費者物価（高知市、生鮮食品を除く総合）は、生鮮食品を除く食料等が前年を上回ったため、前年比プラスとなった（23/9月前年比：+3.6%）。

¹ 県内の百貨店、ショッピングセンター、スーパー等。

5. 企業倒産

企業倒産は、低めの水準で推移している（23/10月：倒産件数1件＜前年3件＞、負債総額10百万円＜同63百万円＞）。

6. 金融

実質預金（銀行、信金、信組）は、前年を上回っている（23/9月末残前年比：+2.4%）。

貸出（同）は、前年を上回っている（同：+1.4%）。

貸出約定平均金利（銀行、信金）は、前月を上回っている（23/9月：1.221%）。

以 上

【本文中の使用計数等の出所】

- ・ 乗用車新車登録台数：四国運輸局「自動車保有台数と販売状況速報」、主要観光施設への入込客数：高知県「月別観光施設利用実績」、新設住宅着工戸数：国土交通省「建築着工統計調査報告」、公共工事請負金額：西日本建設業保証株式会社「高知県内の公共工事動向」、有効求人倍率：厚生労働省「一般職業紹介状況」、現金給与総額：高知県「毎月勤労統計調査地方調査」、消費者物価（高知市、生鮮食品を除く総合）：総務省「消費者物価指数」、企業倒産：東京商工リサーチ「高知県企業倒産状況」。
- ・ その他の項目は、日本銀行高知支店が個別に収集したもの。
- ・ なお、利用統計は公表月によって異なる。